

## プロジェクト報告書

【締切:プロジェクト終了後1か月以内。もしくは 2010年4月30日】

団体名 手・サッカー協会

### ▼報告書の扱い、および記入にあたっての注意点

この報告書(精算報告書以外)は、ホームページなどで公開する予定ですので、広く読まれることを想定してご記入ください。また、編集段階で、表記・表現等を事務局で編集する場合がありますので、あらかじめご了承ください。語尾の表現は「です・ます」調をお願いします。報告書に掲載するため活動の内容がよくわかる写真(2枚程度。写真の肖像権問題がないものの提出をお願い致します)を添付して下さい。

### 1. プロジェクト名

手・サッカー大会

### 2. プロジェクトの目的とその背景 300文字まで

障害のある人もない人もお互いの接点が全くないので、どのように接していいのかわからないのが現状です。バリアフリーとは都市整備などのハード面だけでなく、心や接し方等のソフト面においても成されなければならないと考えています。人には個性があります。障害も個性と捉え、人として同じであるという認識を広める必要があると考え、障害のない人と障害のある人とが積極的に係わるようまた、障害のある人が積極的に社会参加できるような気持ちを持ってもらうことを目的としています。

### 3. プロジェクトの内容 300文字まで

特別支援学校、公立小・中学校等の体育館を借りて、障害者(児)、健常者混成のチームを作り手・サッカーを行う。11月に大会、それ以外に交流試合を行い、会場周辺の障害者(児)や児童生徒、社会人等との交流を広める。参加予定人員は大会で100名。交流試合で40~50名。

### 4. プロジェクト実施にあたっての工夫点とその効果 300文字まで

会場周辺の学校、福祉施設にチラシ、ポスター等を配布して告知して広く参加者を集った。特徴として、障害のある人もない人も車イスを使うという同じ条件で混成チームを組み、手・サッカーゲームを行う。勝ち負けにこだわらず、ゴールが決まった時や、キーパーがうまくセーブした時はチームメイトみんなと一緒に喜び、ゴールを外した時等は一緒に悔しがる。そのように楽しみながら自然に交流ができ、更には作戦会議などで相手の言っていることを理解しようとする姿勢が生まれ、障害のない人はどうしたらいいのかまた、障害のある人はどうして欲しいのかといった事が伝えられるようになり、相互理解がより深まった。

### 5. 全体的所感、終了しての感想など 300文字まで

障害のある人は自分の困っている事、して欲しい事を伝える事ができ、障害のない人は、障害のある人が何をして欲しいのか、どうすればいいのかを考えお互いの意思疎通ができるようになりました。特に今まで障害のある人と話した事なかった人にとっては、最初は困惑しなかなかに話しかける事もできないでいましたが、徐々に慣れてきてゲームの作戦を考えたりするを通してその人の持っている障害というものが理解できるようになったようです。この経験を活かして、街中でも障害のある人、ない人間問わず困っている人に声が掛けられるようにまた、困っていると伝えるようになってくれるのではないかと考えています。

### 6. 参考資料

支援対象プロジェクトで作成したチラシ、パンフレットやマスコミで紹介された記事等は現物またはコピー、活動風景の写真を参考資料として提供してください。

参考資料あり・ 特になし

